

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	いすみ市立岬中学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○思考力を問われる課題に対しては、考えることをあきらめる傾向の生徒が多く見られ、無答率が高い。また、記述式の問題で正答率が低いことから、解決の筋道を論理的に、適切な用語を用いて説明することが苦手な生徒が多いという実態も見られる。誤答を恐れずに、自分なりの考えを持ったり、表現しようとしたりする態度を育てていくことが大切である。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○「生徒自らが意欲的に取り組もうとする課題の設定」「自らの考えを表現する場の設定」を意図的に行うことで、自ら考える力を育てていく。

3. 具体的な実践

- 第1学年「変化と対応」
 - ・平成31年度全国学力・学習状況調査の問題を素材として、「教員が購入する冷蔵庫の選択に迷っている」という設定で、生徒に学習課題を提示した。
 - ・1年生にとって未習の「一次関数」の内容を含んでいることで、多様な考え方を引き出し、それらを共有する場面で自らの考えを表現したり、友達の考えと比較させたりした。
- 第2学年「図形の調べ方」
 - ・全国学力・学習状況調査の結果から、証明において理由や根拠を明らかにすることについて苦手意識をもっている生徒が多いため、今回は、星形五角形の5つの角の和を図形の性質を使って考え、説明する授業を展開した。
 - ・具体物を使って見通しをもたせ、既習内容を使って筋道を立ててグループの中で説明し、伝え合う活動を行った。

4. 成果

- 生徒が取り組んでみようと思える課題を設定することで、様々な考え方を見いだしていこうとする意欲を引き出すことができた。
- 多様な考え方を伝え合う場面を設定したことで、伝え合う面白さを感じ、伝えるためには自らの考えを整理し、適切な言語を用い、筋道を立てて述べることが大切であることを実感させることができた。

◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 石橋 由江）

○全国学力・学習状況調査の結果を分析し、自校の実態にあった研究テーマのもと、授業改善に取り組んだ。検証授業では、生徒の興味を引き出しながら、場面の中で課題と向き合わせることで、意欲的に思考・表現する生徒の姿が見られた。